

KEM News Letter 18号

2025年度 第28回サマーセミナー及び第26回ハンズオンセミナーが開催されました

KEM第28回サマーセミナーが開催されました

テーマ：「歯根切除術ー基本から難しい大臼歯症例までー」

2025年8月28日（木）17:00～19:30

場所：日本大学歯学部創設百周年記念講堂 参

加人数 135名

講師：高林 正行先生（東京都開業）

牛窪 敏博先生（大阪府開業）

大会長：武市 収教授（日本大学）

実行委員長：勝呂 尚先生（日本大学）

協賛企業：トロフィー・ラジオロジー・ジャパン株式会社

第26回ハンズオンセミナーが開催されました

テーマ：「初めての外科的根管治療ー導入から基礎の確立へー」

2025年8月28日（木）14:00～16:00

参加人数 25名

講師：高林 正行先生（東京都開業）

場所：Ciメディカル東京ショールーム研修室



サマーセミナーに参加して

埼玉県開業 柿沼秀明

2025年8月28日に日本大学歯学部 創設百周年記念講堂にて東京都開業 高林正行先生と大阪府開業 牛窪敏博先生の講演を受講しました。

高林先生のタイトルが「大臼歯も外科的根管治療」で、前歯部とは違い術野の確保、歯や周囲の解剖形態によって制約を受けるため、難しいケースとなりますが、高林先生のシステム化された歯根端切除方法はとても理解しやすかったです。

先生のお話では、外科的歯内療法に移るには3つのケースがありました。

- ①.根管治療を行っても予後が悪いケース。
 - ②.根管の石灰化を起こしているケース。
 - ③.側枝、根尖分岐、根尖孔外感染のケース。
- ①の場合根管処置が終了してから1～2年は予後を見て不良ならば歯根端切除に移ります。
- いずれのケースでも注意しなければいけないケースは、上顎のCT画像で上顎洞底線がフラットでなく奥行きがなく上顎洞に接しているケースでは穿孔のリスクがあります。
- 歯根端切除のワーキングスペースのお話では器具の操作を妨げないために垂直的に4mm必要であり、器具をアプローチしやすくするため、骨切削を近心方向に拡大することでした。
- 牛窪先生のタイトルは「上顎大臼歯のパラタル

サージェリー」でした。上顎第一大臼歯口蓋根への外科的アプローチは非常に難しく、かなりエキスパート的な内容でした。切開線で気になったところがあります。私の知り合いの口腔外科専門医の意見ですが、大口蓋動脈は7番から6番ぐらいまではCT画像の骨の陥凹で判断できるが、そこから先はどこまで伸びているかは解らなく、血流と縫合のことを考えると上顎大臼歯根尖部にアプローチするときの切開線のデザインは縦切開いれずに、歯肉溝切開を前歯部まで延ばし、7番にも遠心切開を加えるとの事でした。

ガイドサージェリーはフリーハンドに比べ正確に行える技法なので、今後も発展していくのだろうと感じました。

アンケート集計回答数19枚

Q今回のサマーセミナーに参加されていたかでしたか？（満足84.2%、普通16.7%）

- ・ 一般的でない
- ・ 外科は通常の根管治療の失敗だともっと強調して欲しい
- ・ 演者と内容が良かったです
- ・ 適応症がわかりました

Q今回の講演内容は、今後の診療に役立ちますか？（満足78.9%、普通21.1%）

- ・ 臼歯のエンドオペは諦めていたのですが、全然治せるんだと思いました
- ・ 術者中心の医療

Q今回良く理解できた事は何でしたか？

- ・ 歯根端切除の可能性
- ・ パラタルサージェリーの必要性を難易度
- ・ 技術が進んでいるということ

Q今回あまり理解できなかった事は何でしたか？

- ・ デジタルの話は、文字ばかりで少しイメージが追いつかなかったです
- ・ 切除治療の意味
- ・ なぜ、外科を選択したのか
- ・ ガイデッドサージェリー
- ・ 大臼歯のマイクロサージェリーにかかる時間

Q今後、どのような講演をご希望ですか？

- ・ 歯根吸収やレーザー洗浄の話を知りたい
- ・ 抜歯の基準
- ・ 難治性根尖性歯周炎の症例と対応
- ・ 歯髄再生療法

第24回関東歯内療法学会学術大会のご案内

日時：2026年1月25日（日）9:30~16:00

場所：東京科学大学湯島キャンパスD棟4階
歯学部特別講堂

テーマ：歯根吸収ー現在の分類と今後の展望

大会長：八幡 祥生教授（東京科学大学教授）

講師：村野 浩気先生（神奈川歯科大学）

野間 俊宏先生（福岡県開業）

橋本 貞充先生（東京歯科大学教授）

定員：120名

詳細は、関東歯内療法学会HPにて